

市民と市政をつなぐ 小田原市議会議員 **しのはら弘**まちづくり  
情報紙**かけはし**発行者 自宅：〒250-0858 小田原市小台322-5  
篠原 弘 事務所：〒250-0857 小田原市柳新田48 広貴商事ビル1階TEL：090-1652-3900/FAX：0465-37-4381  
E-mail：shinohara.hiroshi1116@gmail.com

お読みいただける方には発行ごとに郵送（無料）させていただきます。上記の発行者までご連絡ください。

**2026(令和8)年春 開院予定****市立病院に替わる新病院**

外観イメージ

**今後のスケジュール**

- ◆ 契約・工事着手 令和5年12月
- ◆ 工事完了 令和8年2月
- ◆ 開院 令和8年春

**建設工事費を見直し****198億円が260億円に上昇**

小田原市は、市立病院に替わる新病院の建設工事費が材料費や労務費、経費などの高騰により、2020(令和2)年12月に策定した建設基本計画の概算事業費と比較して62億円の増、Qプロポーザル提案時の見積額に比較して約96億円増の約260億円となる見通しを明らかにしました。市では、新病院建設工事にかかる2023～25年度の継続費252億円などの病院事業会計補正予算案を市議会9月定例会に提出。全員賛成で可決されました。

**建設工事費見積額の推移**

見積時期	建設基本計画時	プロポーザル提案時	補正予算時
	2020年12月	2021年10月	2023年8月
見積額	準備工事1※	約164億円	2.95億円
	準備工事2※		4.98億円
	本体工事		252億円
計	198億円	約164億円	約260億円
延床面積	40,000㎡	40,210㎡	41,272㎡
建築㎡単価	495,000円	408,000円	630,000円

**物価上昇が95%を占める**

市では、建設工事費上昇の要因について、建築工事費のほか電気、給排水衛生、空調といった設備工事費の上昇に加えて

※準備工事1…山留壁設置等工事(令和3～5年)  
※準備工事2…障害除去工事(令和5年)

物流コストや人件費の高騰など複合的要因が重なったこと、特にプロポーザル提案時から増加した96億円のうち、91億5000万円(約95%)が物価上昇分と分析しています。

**財政的影響は限定的**

建築工事費の上昇に伴う市財政への影響について、市では建設工事の財源に各種補助金を確保

することや公立病院に対する国の財政措置が見込めることから、実質的なQ一般会計負担金は、基本計画で想定していた額と同程度となるとしています。

また、病院事業自体の会計は、収支シミュレーションの結果、資金不足を招くことはない見込んでいます。

**Qプロポーザル方式**

業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に目的物に対する企画を提

案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定・契約する方式です。

**Q一般会計負担金**

病院事業会計への一般会計からの負担金のこと、一般会計側では「繰出金」病院事業会計側では「繰入金」とされています。

公立病院は、自らの経営による受益者からの収入をもってサービスを提供するための経費に充てることが原則(独立採算の原則)となっていますが「その性質上、当該公立病院の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない救急医療や小児医療などの経費」については、地方公営企業法で当該自治体の一般会計が負担すべきものとして規定されています。

2022年度の小田原市一般会計から病院事業会計への繰出金は14億円、いわゆる赤字補填の繰出しはありません。

### 神奈川県年齢別人口統計調査結果

# 小田原市人口 18万7166人

前年比859人減 24年連続の減

神奈川県は、2020年国勢調査結果を基にした2023年1月1日現在の年齢別人口統計を取りまとめ7月に公表しました。公表によると小田原市の人口は、前年比859人減の18万7166人で、1999年をピークに24年連続での減少が続いています。また14歳以下の「年少人口」も減少傾向に歯止めがかからず「老年人口」は年少人口のおよそ2・9倍で少子高齢化が加速しています。

1999年ピーク時から  
1万3529人減少

小田原市の総人口は、前年比859人減の18万7166人で、1999年ピーク時の20万95人から24年間で1万3529人減少。  
県下の市町村人口順位では、8位の大和市24万3067人、9位の厚木市22万3956人に次いで10位、11位は鎌倉市の

17万2107人。

14歳以下「年少人口」  
約1割 1万9773人

14歳以下の年少人口は、前年比341人減の1万9773人、全人口に対する構成比は10・8％で、県全体は11・8％。

15〜64歳「生産年齢人口」  
約6割 10万7271人

15〜64歳の生産年齢人口

### 国・県・市の年齢別人口統計比較

年齢 (3区分)	国・県・市	2023年		2022年		比較
		人口	構成比	人口	構成比	
総人口	国	125,416,877人	-	125,927,902人	-	-511,025人
	神奈川県	9,227,901	-	9,231,177	-	-3,276
	小田原市	187,166	-	188,025	-	-859
年少人口 (14歳以下)	国	14,731,822	11.8%	15,035,727	11.9%	-
	神奈川県	1,047,478	11.8	1,065,999	11.8	-18,521
	小田原市	19,773	10.8	20,114	10.9	-341
生産年齢人口 (15〜64歳)	国	74,796,061	59.6	74,962,731	59.5	-166,670
	神奈川県	5,640,059	62.6	5,627,097	62.4	12,962
	小田原市	107,271	58.3	107,847	58.4	-576
老年人口 (65歳以上)	国	35,888,947	28.6	35,929,389	28.5	-40,442
	神奈川県	2,326,294	25.8	2,324,007	25.8	2,287
	小田原市	56,893	30.9	56,835	30.7	58

は、前年比576人減の10万7271人、全人口に対する構成比は58・3％で、県全体は62・6％。約3割 5万6893人

65歳以上は、58人増の5万6835人。全人口に対する構成比は、およそ10人のうち3人にあたる30・9％で、県全体の25・8％に比べ約5ポイント高い。

# 小田原市議会9月定例会終える

補正予算や令和4年度決算など 原案を可決・承認

9月1日から10月5日

にかけて開催された市議会9月定例会には、市長から9月補正予算や令和4年度歳入歳出決算の認定などの議案が上程され、審査の結果、全て可決・承認されました。また一般質問は23人の議員が登壇しました。



程された補正予算は全て可決されました。

## 補正予算

## 出産・子育て応援補助金など

一般会計補正予算は、総額4億6992万1千円で、主な事業は「出産・子育て応援事業」9561万3千円（詳細は3面に掲載）、「若者が創る、集う、にぎわいまちづくり推進事業」3800万円などで、補正後の予算額は773億6187万7千円になりました。上

## 一般質問

## 23人が市長と論戦

市民の暮らしを支える市政運営などについて質問する「一般質問」は23人が行い、人口増加策、地域経済の振興、デジタル化によるまちづくりなどについて市長と論戦を交わしました。

※詳細は「市議会だより11月号」をご覧ください。

\*「かけはし」では、公開されていない情報や見えにくい情報を、できるだけ分かりやすくお伝えすることを心がけています。

# 出産・子育て応援事業を継続

伴走型相談支援  
経済的支援

## 一体的に実施

「出産・子育て応援事業」は、すべての妊婦の方と子育て中の家庭が出産や子育てに安心して取り組むことができるよう、妊婦の方に寄り添い出産から子育て期まで一貫して相談に応じ、併せて10万円の経済的支援を行うものです。市では、本年度上半期において、国の交付金を活用し同事業を実施していますが、国が事業を継続することとしたため、下半期の必要経費を9月補正予算で措置し事業を継続することになりました。

### 伴走型相談支援

▼市の保健師・助産師による面談

妊婦の方が抱える様々な不安を解消するため、妊娠届出時に市の保健師・助産師が面談を行います。

▼妊娠8か月前後にアンケート調査

妊娠8か月前後の妊婦の方にアンケートを送付して、現在の体調



受けた妊婦の方。

▼申請方法

面談時に市の保健師等がお渡しする申請書兼請求書に必要事項を記入し、添付書類と一緒に郵送。

### 子育て応援給付金

▼支給額

新生児1人につき5万円。

▼対象者

生後4か月までのお子さんのいる全ての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」の面談を受けた養育者。

▼申請期限

面談実施後3か月

▼申請方法

面談時に市の保健師

### 出産応援給付金

▼支給額

妊婦の方1人につき5万円。

▼対象者

妊娠届出時に面談を

### 経済的支援

や出産に向けて楽しみなことや不安などについてお聞きし、希望者へは面談が行われます。

## ゼロカーボン・デジタルタウン創造事業

### 事業の骨組み 基本構想素案を公表

市では、小田原少年院跡地を計画候補地として、2030年の街びらきを目指す「ゼロカーボン・デジタルタウン」の基本構想素案を公表しました。ゼロカーボン・デジタルタウンは「ゼロカーボン」と「豊かな暮らし」との両立を最先端のデジタル技術によって実現する新しいモデルタウンを整備する事業です。以下、主な内容を抜粋して掲載します。

### 事業の目的

#### ゼロカーボンの実現

地球温暖化対策として、市では2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）を目指しています。その取組を加速させるため「究極のゼロカーボン」と「社会変化に適応した豊かな暮らし」の両立を「デジタル技術」で支えるモ

等がお渡しする申請書 記入し、添付書類と一緒に請求書に必要事項を一緒に郵送。

### 整備コンセプト

#### 新しいライフスタイルの提案

市民の行動変容へとつなげていくため、新技術を実証・実装しながら、新しいライフスタイルを示し、住民を中心とした暮らしの場を創造するため、次の

整備コンセプトを掲げています。

- ①エネルギーを地産地消する街
- ②ライフサイクル全体で二酸化炭素排出量が実質ゼロとなる街
- ③みんなのでつくり育てる街
- ④周囲とのつながりがある街
- ⑤災害に強い街
- ⑥心と時間の余裕が生まれる街
- ⑦誰もが安心して住める街

### 計画候補地

#### 小田原少年院跡地

新しいライフスタイルを体現するモデルタウンとするため、市街化区域内の住居系の用途で、利便性の高い土地である小田原少年院跡地を候補地としています。



小田原少年院跡地

\* 「かけはし」の新聞折り込みは不定期です。発行ごとにお読みいただける方には郵送させていただきます。



# 情報あれこれ

## ■小児医療費無償化18歳まで拡大 来年10月から

市は現在、対象年齢が中学生までとなっている小児医療費の無償化について、2024年10月診療分から18歳までに拡大する方針を11月10日開催の市議会厚生文教常任委員会に報告しました。



市では、18歳までの拡大に伴い助成対象者が約4,800人増加し、費用は通年で1億円程度と見込んでいます。

今後、市議会3月定例会に条例議案と関連予算案を上程し、4月から周知広報活動、6月から申請の案内通知の発送、7月から申請受付、9月に医療証を対象者に発送することを予定しています。

## ■ドックランの常設化に向け3～5月に試行運用

市では、来年3月から5月にかけて、扇町クリーンセンター（小田原市扇町6丁目826番地）でドックランの常設化に向けた試行運用を行います。



ドックランは本年度、市内事業所内の一部用地を借用して開設予定でしたが、調整が整わなかったため、代替案として、遊休施設となっている同センター内にあるゲートボール場をドックランに転用することにしました。

市は、試行運用で利用者ニーズなどを把握した上で常設化するかどうか検討することとしています。

試行運用は土・日曜日に行われ利用料は無料です。

## ■サル譲渡で小田原動物園が73年の歴史に幕

小田原城址公園内の小田原動物園で唯一飼育されているニホンサル7頭が、今年12月に「東筑波ユートピア」（茨城県石岡市の自然動物園）に譲渡されます。



サル舎  
(現在の小田原動物園)

譲渡先の東筑波ユートピアでは、サルが縄張り意識が強いことから、受け入れるサルの群れと飼育中のサルの群れとを分離するため、サル舎を改修しています。

市では、12月にサルを搬送し、年明けにサル舎を解体することにしており、最も多いときには70種322頭もの動物が飼育されていた小田原動物園は、73年にわたる歴史に幕を降ろすこととなります。

## ■小田原市長選挙 2024年5月19日

小田原市選挙管理委員会は、2024年執行予定の小田原市長選挙（任期満了日は2024年5月23日）を5月19日（日）に投票を行うことを発表しました。



### ■選挙期日

2024年6月5月19日（日）

### ■期日前投票期間

2024年5月13日から18日までの6日間

### ■投・開票（予定）

投票：53箇所（午前7時から午後8時まで）

開票：小田原アリーナ・サブアリーナ（午後9時開始）

## ■2024年小田原市はたちのつどい 1月8日

小田原市の2024年はたちのつどいは、1月8日に式典のみを2回に分けて開催されます。



### ■開催日 1月8日（月・祝）

### ■時間 以下のとおり、お住まいの中学校区ごとに区分けし、式典のみ行われます。

回数区分	対象の中学校区	時間
1回目 (午前の部)	【川西地区】 城山、白鷺、白山、城南、泉、城北 中学校区にお住まいの方	10:00 受付
		10:30 開会
		11:00 閉会
2回目 (午前の部)	【川東地区】 鴨宮、千代、国府津、酒匂、橋中 校区にお住まいの方・そのほかの方	12:30 受付
		13:00 開会
		13:30 閉会

### ■場 所 小田原三の丸ホール 大ホール

### ■対 象 2003年4月2日～2004年4月1日生まれの方

## ■資源ごみを常時出せる回収拠点を3ヶ所設置

市では、家庭の資源ごみの出しやすい環境づくりを整備することで、分別の徹底と資源化のさらなる推進を図るため、新たに資源ごみの回収拠点を市施設3か所に設置します。



資源ごみ（対象品目）は、12月1日から回収拠点が設置される市施設の開設時間内であれば、いつでも出すことができます。

回収拠点	対象品目
環境事業センター	ペットボトル、かん類、びん類、紙・布類
梅の里センター	ペットボトル、かん類、びん類
尊徳記念館	ペットボトル、かん類、びん類

※設置場所は各施設とも駐車場

\*「かけはし」を店舗などにおいてくださる方は、1面上段の発行者までご連絡ください。（無料です）